



奥出雲町  
OKUIZUMO

# 横田 YOKOTA HIGH SCHOOL 高校

島根県立横田高等学校  
魅 力 化 ビ ジ ョ ン

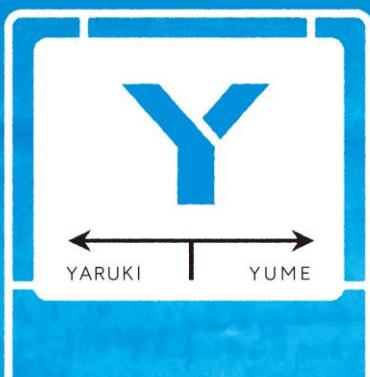
2017—2021

## 未来を切り拓く



よん ぼう  
**四方よしの  
ひとづくり**

YOKOTA HIGH SCHOOL



## はじめに

横田高校は多様な志望や学力を持つ生徒一人ひとりにきめ細かい指導を行いながら、地域と連携したプログラムや少人数指導のもと地域の教育力を活かした魅力ある学校づくりをめざし、平成23年より「横田高校魅力化プロジェクト」を実施して参りました。

その間、だんだんカンパニーや奥出雲学、町内職業体験など、地域連携による取組みを進め、「高校生の元気は町の元気」と言って頂けるほど、地域に開かれた横田高校へと取組みを進めて参りました。皆様方のご支援に心から感謝申し上げます。

しかしながら、町内の子どもの人数は今後もさらに減少していくことが予測され、今ままでは近い将来、クラス数が減少し、このまま、策を講じねば、10年後の横田高校の存続はおろか長期的には地域の存続も危ぶまれる状況です。そして、横田高校の存続、魅力化は地域の未来にかかる重要な問題なのです。

「このまちでよかった」「このまちがよかった」と思い、ここなら、きっと何かができる、何かが起きる、そう期待できる町であってほしいと誰もが願っています。そして、町内に1つしかない横田高校も、「横田高校でよかった」「横田高校がよかった」と選ばれる高校でありたいと願っています。私たちは、そのような「ほしい未来」の実現に向かい「横田高校魅力化ビジョン」を策定しました。

このビジョンは横田高校だけで実現できるものではなく、町民の皆さんとともに実現するものです。このビジョンの実現に向け、良きパートナーとして、皆さんとともに歩んでいき、この奥出雲町から日本と世界の未来を担う人づくりを全力で進めていきたいと願っています。

島根県立横田高等学校長 藤本数章

## 目 次

### ■ 第1章 横田高校の現状と魅力化ビジョンの必要性

1 横田高校の概要.....	3
2 生徒数の推移と今後の予測 .....	7
3 横田高校が町に与える影響 .....	8
4 現状の環境分析.....	9
5 横田高校魅力化ビジョンの必要性 .....	12

### ■ 第2章 横田高校魅力化ビジョンが目指すもの

1 基本理念・基本方針・計画期間 .....	14
2 目指す生徒像(魅力ある生徒像) .....	15
3 目指す学校像(魅力ある学校像) .....	17
4 目指す地域像(魅力ある地域像) .....	18

### ■ 第3章 横田高校魅力化ビジョンの具体的な事業や取組み

1 実行プラン体系図.....	19
2 推進する施策 .....	20
3 成果指標と目標.....	37

### ■ 第4章 横田高校魅力化ビジョンの推進体制と役割分担

1 推進体制 .....	38
2 施策推進における役割分担 .....	43

### ■ 参考資料

1 推進体制 .....	44
--------------	----

## 横田高校の現状と魅力化ビジョンの必要性

### 1 横田高校の概要

横田高校は大正 8 年に創立され、平成 31 年に創立 100 周年を迎える伝統を誇る高校です。創立以来、地域とともに歩み、今日まで全国各地へ 1 万 3 千余名の有能な人材を送り出しました。また地域からの期待も高く、人材育成はもちろんのこと、ホッケー競技の男女合わせて過去 23 回の全国大会優勝や、また北京・アテネ・ロンドン・リオとオリンピック選手を輩出し、全国屈指の強豪校として知られています。

しかしながら、全国的な少子化の流れの中で、平成 14 年まで全校生徒数 500 名以上を維持していましたが、平成 23 年に 336 名と減少し、平成 26 年度より 1 クラス減の 1 学年 3 クラス 120 名定員となりました。今後も少子化傾向は続くことが予想されます。

そのような中、平成 23 年度から島根県「離島・中山間地域魅力化活性化事業」に町と本校が連携し、魅力化・活性化に向けた取り組みを行ってきました。「高い志と自他を愛する心を持ち、故郷の未来に貢献できる有為な社会人」を育てる 것을を目指し、平成 22 年に「産官学連携」による地域活性化研究事業「だんだんカンパニー」を設立し、翌年から東京販売を開始し、地域と連携した学習に力を入れてきました。

また、就職志望から難関大学志望まで生徒の幅広い進路志望に対応できるよう平成 27 年度入学生よりカリキュラム変更を行い、2 年次から総合コース・進学コースに分かれ、少人数授業や個別指導に取り組んで参りました。その結果、高い就職内定率を達成するとともに、国公立大学進学は 2 ケタの進学者数を維持しています。



## 学校経営方針

(1) 奥出雲町唯一の高等学校としての使命を常に自覚し、生徒一人ひとりのニーズや抱える課題を把握しながら、生徒・保護者及び地域の要請や期待に応えられるような教育活動を教育目標「耕心培学」のもとに、学校全体で展開します。今後の本校の在り方や本町の状況等を見据えて、魅力と活力ある高校づくりに取り組みます。

(2) 「地域の学校」として、生徒や学校の存在が地域の活力の原動力となるよう、「開かれた学校」を推し進め、生徒の元気や学校の活力を奥出雲町内外に発信します。

## 教育目標

校 訓 凛凜しく・毅く・逞しく

教育目標 耕心培学 ～心の田を耕し、学徳を培う～

## 重点目標

- ・ キャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの学力及びふるまいの向上を図り、生徒の自己実現を支援します。
- ・ 人権尊重の精神をすべての教育活動の基底に据え、生徒一人ひとりが意欲的で活力に満ちた学校づくりを目指します。
- ・ すべての教育活動を通じて、生徒の「豊かな感性や知性」を醸成します。
- ・ 家庭や地域との情報交換を積極的に行い、地域から信頼され、期待される学校づくりに努めます。

## コース編成

就職志望から難関大学志望まで生徒の幅広い進路志望に対応できるよう平成27年度入学生よりカリキュラム変更を行い、2年次から総合コース・進学コースに分かれ、習熟度別の少人数授業、個別指導などに取り組んでいます。

コース	目指す進路目標
総合コース	主に私立大学・短大や専門学校（保育系・福祉系・美容系・公務員養成系など）への進学や就職
進学コース	主に文系・理系の国公立大学を中心とした進学

## 部活動

平成28年度現在の部活動の種類と部員数は図1の通りです。本校は生徒の部活動の加入率が非常に高く、平成28年度は96.1%となっています。小規模な高校ながらホッケーや剣道、陸上、吹奏楽部などは、全国・県で上位の成績を収める活躍がみられます。

部活動の種類と部員数（平成28年5月1日） 図1 ( )はマネージャー

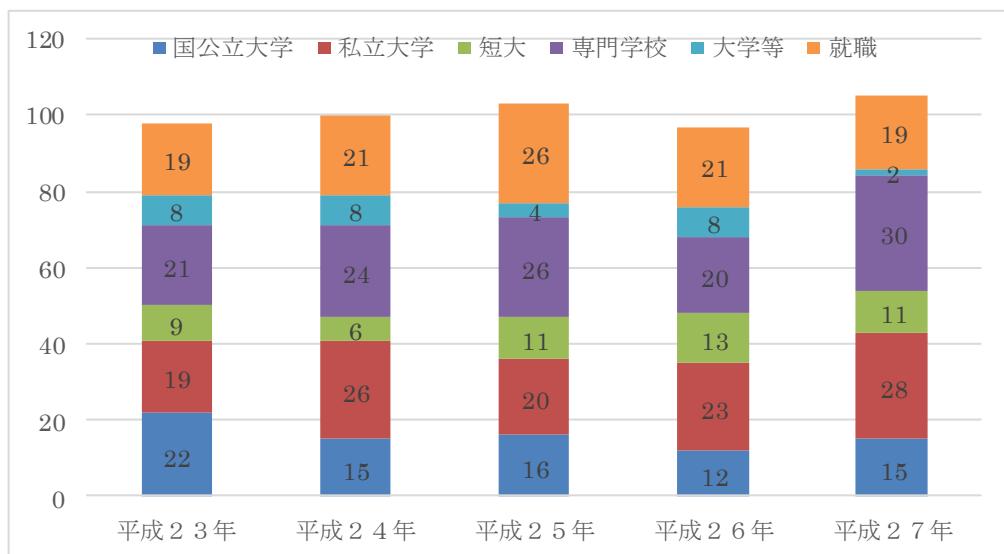
部活動の種類		部員数
文化部	美術	19
	茶道	9
	華道	6
	放送	1
	写真	14
	吹奏楽	20
体育部	男子ソフトテニス	16(2)
	陸上	16(2)
	男子サッカー	11(3)
	剣道	15
	男子バレー	7(1)
	女子バレー	14(4)
	男子ホッケー	32
	女子ホッケー	23
	女子バスケット	7
	弓道	26
合計		248
部活動加入率		96.1%

## 進路状況

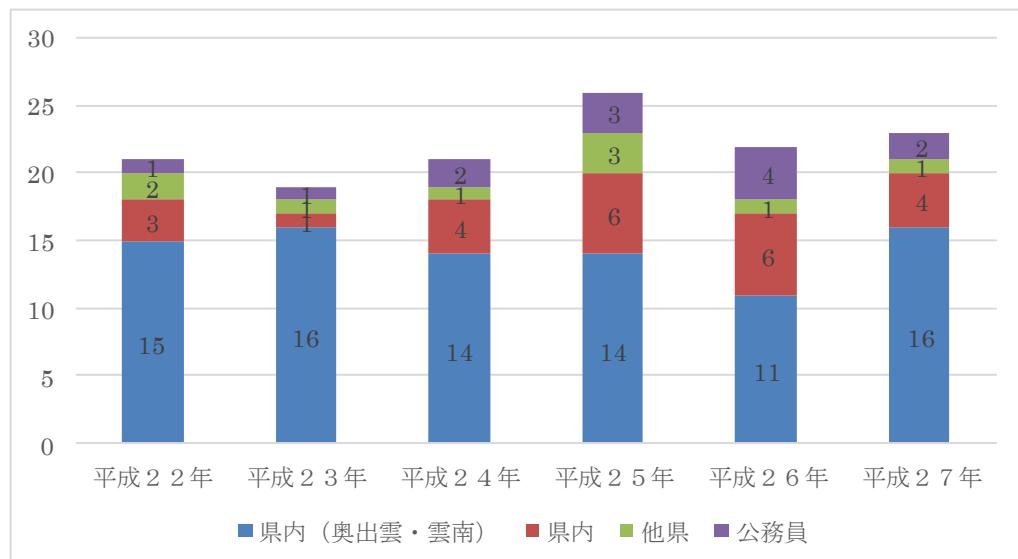
本校は前述の通り、進学希望者と就職希望者それぞれの希望を実現するために、総合コースと進学コースの2つのコースを設けています。過去5年間の卒業生の進学・就職の状況は図2の通りとなっています。卒業生の8割が進学している状況です。また国公立進学者は2桁を維持してきました。

また、図3に示す通り、県内就職者が9割前後であり、そのうち奥出雲町・雲南市内での就職者が6割～7割を占めています。

卒業後の進路状況 図2



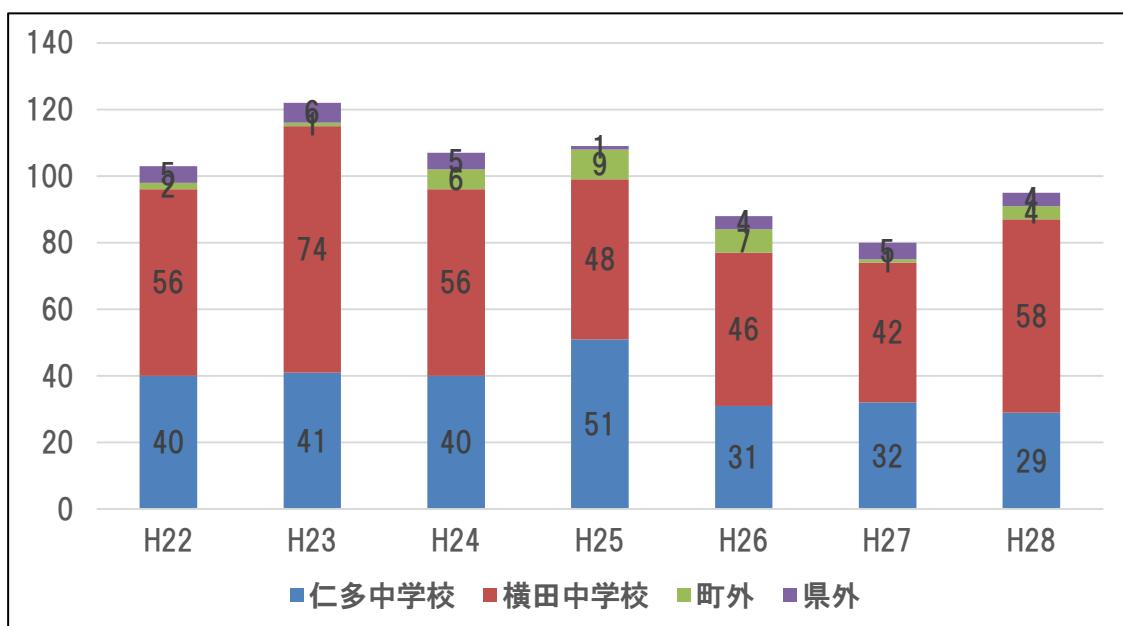
就職先（県内・県外）の状況 図3



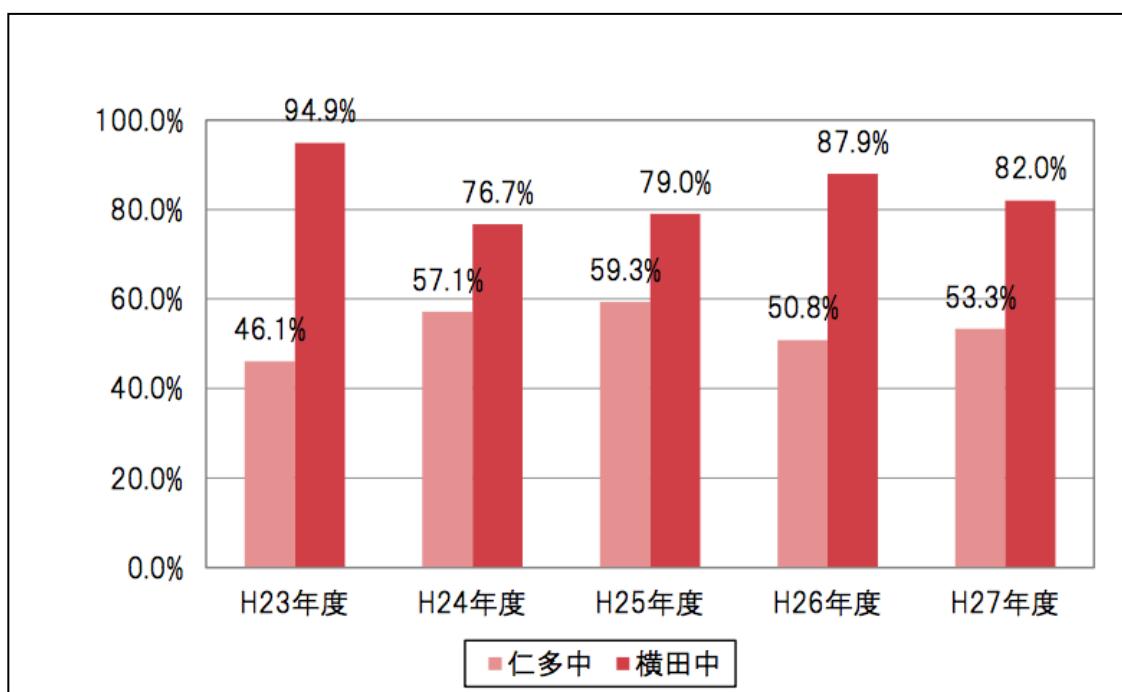
## 2 生徒数の推移と今後の予測

生徒数の減少により平成26年度に1学級減少し、3クラス体制へと移行しました。また、平成30年から地元中学校の生徒数は90人台が続き、現状の数値で推移するところさらなるクラス減、教員定数減が予測されます。

横田高校入学生の推移 図4



中学校別の横田高校入学率推移 図5



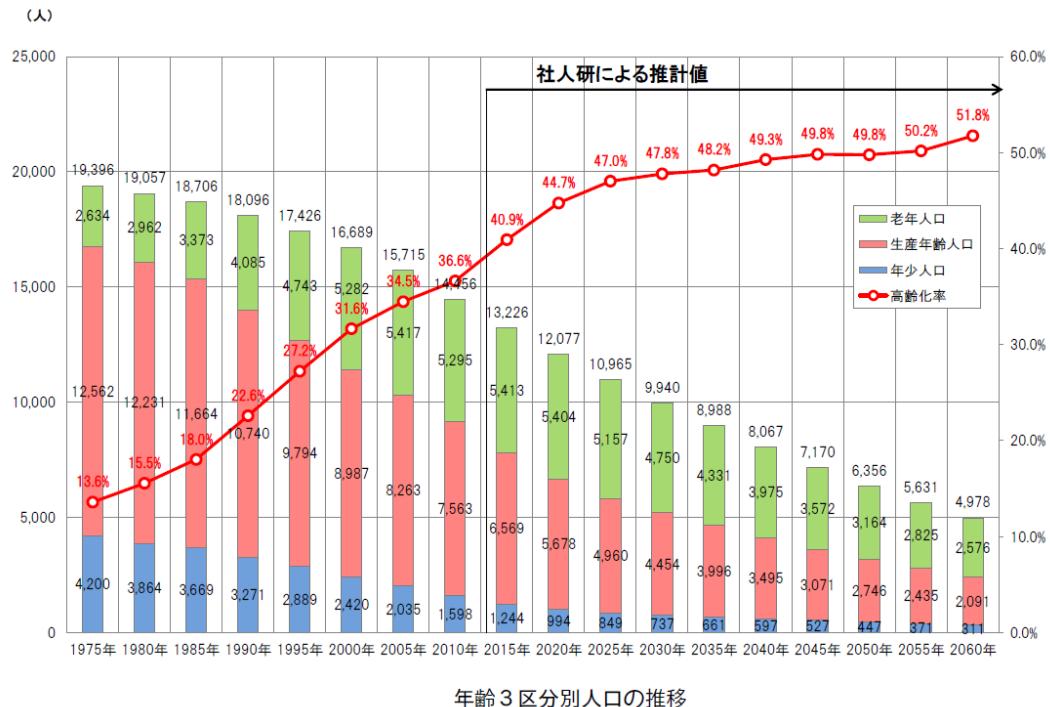
### 3 横田高校が町に与える影響

横田高校を失うことは本町にとって、今後のまちづくりの観点からも計り知れない損失であるとともに、地域で安心して生み育てることができる環境の崩壊を意味する問題です。具体的には、以下のような影響が予測されます。

横田高校がなくなれば、中学卒業とともに本町を離れる子どもが増え、この町に15歳から18歳の生徒がいなくなります。遠方に通学させなければならぬため、生徒・保護者の時間的・経済的な負担が増えます。それにより、生徒とともに世帯ごと転出していく家庭も増加することになります。すべての子どもが高校・大学を町外で過ごすため地元に愛着が持てず、大学卒業後も地元に戻らない可能性が高くなります。さらに、教育費の負担増により、子どもを生むことへの不安が高まるため、出生率も低下する可能性があります。

また、現在の人口予測では、奥出雲町の人口は1975年の約19,400人をピークに数々の人口減少対策の甲斐もなく一貫して減少が続いています。2020年には老齢人口の増加が全国に先駆けてピークアウトし、さらに若年人口が加速度的に減少の一途をたどる予測となっています。

特に年齢階級別の人団移動において、高校・大学進学・就職における15歳～24歳の人口が大幅な転出超過になっています。また、25歳～34歳のUターン世代についても大きく転出超過となり、社会減となっています。



このように高校進学を含む若者の流出が奥出雲町の未来へもたらす悪影響は大きく、現状のまま進むと「若者の流出→後継者不足→既存産業の衰退→雇用の縮小→地域活力低下→若者流出」という悪循環を加速させることになります。

子どもの健全な発達、ふるさと教育、保護者の経済的負担、少子化、UIターンの定住、文化の継承、地域活性など、様々な観点において、横田高校の存続は地域の未来と直結しています。

## 4 現状の環境分析

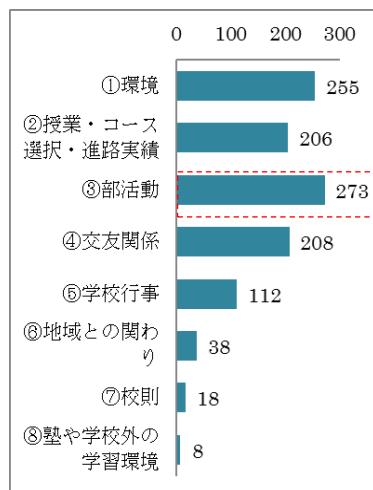
本ビジョンを策定する上で、本校に対するイメージや進路決定時の評価項目等を調査するために町内の仁多中学校、横田中学校の生徒、先生、また、横田高校生に対しアンケートを実施しました。その結果、「進路決定時の重要度」という項目において横田高校在学生は部活動や環境が進学の決め手となったと回答していますが、中学生は学習環境や進路実現を重視しており、「学習環境」を重視する生徒が横田高校以外へ進学する傾向があることがわかりました。

### [進路決定時の重要度]

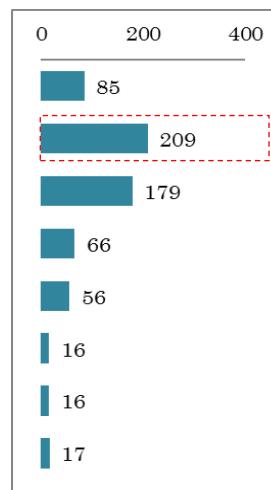
進路決定時の重要度	1位					2位					3位				
	高校	仁多中	横田中	仁多中T	横田中T	高校	仁多中	横田中	仁多中T	横田中T	高校	仁多中	横田中	仁多中T	横田中T
①環境	56	13	10	2	1	30	16	15	2	4	27	14	13	3	1
②授業・コース選択・進路実績	35	50	50	11	11	35	23	12	1	2	31	13	17	2	1
③部活動	62	33	12	2	2	27	30	27	9	5	33	20	20	2	7
④交友関係	21	2	11	0	0	56	18	22	3	2	33	24	17	4	6
⑤学校行事	10	5	4	0	0	25	10	10	0	0	32	21	16	1	0
⑥地域との関わり	4	1	1	0	0	6	4	4	0	1	14	5	4	1	0
⑦校則	0	0	1	0	0	5	5	2	0	0	8	6	5	0	0
⑧塾や学校外の学習環境	1	2	2	0	0	1	3	3	0	0	3	5	3	0	0
無回答	49	16	17	0	1	53	13	13	0	1	57	14	13	2	0
合計	238	122	108	15	15	238	122	108	15	15	238	122	108	15	15

[各属性別(1位×3点、2位×2点、3位×1点として合計数字を表示)]

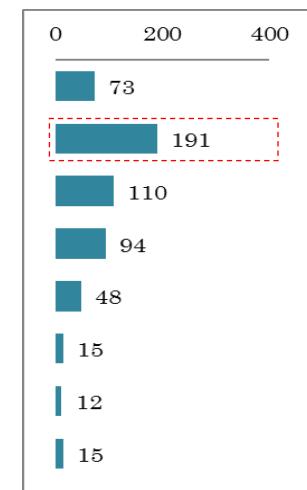
【横田高校】



【仁多中学校】



【横田中学校】



この結果を受け、奥出雲町と横田高校の置かれている現状を再認識するために内部要因である強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、外部要因である機会(Opportunities)、脅威(Threats)という四点で分析する SWOT 分析を魅力化ビジョン策定委員会において行いました。

### 横田高校と奥出雲町の現状【事業環境分析】

	プラスの要素	マイナスの要素
内部要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験豊富な中堅教員が多い</li> <li>個別指導や少人数指導の満足度が高い</li> <li>部活動に熱心(ハッkeeー・剣道)</li> <li>部活動加入率が高い</li> <li>地域との連携した学習が定着してきた</li> <li>問題行動がほとんどない</li> <li>生徒と教員で概ね良い人間関係がつくれている</li> <li>学校のルールを遵守することできる生徒が多い</li> <li>校舎や寮などが新しく環境がよい</li> <li>留学生や県外生を受け入れた多様な生徒が増えつつある</li> <li>進学率が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習意欲が低い生徒が増えている</li> <li>家庭学習の時間が少ない</li> <li>中学まで続けてきた部活動を続けれれない</li> <li>進路意識が弱く、自己の未来をイメージできない生徒がいる</li> <li>小中の人間関係や成績の序列化が固定している</li> <li>中高の教科連携が継続しない</li> <li>中学校教員や多地区への情報発信不足</li> <li>他県・海外などの異文化と触れる機会の不足</li> <li>生徒の通学・交通の便が悪い</li> <li>寮の定員に限りがある</li> <li>県外生が増えたことにより、寮のさらなる魅力化・ルール化が必要</li> <li>教員の異動によるノウハウの蓄積ができない</li> </ul>
外部要因	<p>Strengths 強み S</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活用しやすい豊富な地域資源</li> <li>協力的な町内企業・事業所の存在</li> <li>町内求人の増加</li> <li>民間塾が生活圏内にできた</li> <li>町からの寮費・通学費などの財政支援</li> <li>フリースペース「まつ」の存在</li> <li>協力的な卒業生(社会人・大学生)の存在</li> <li>地域課題が豊富であり、地域課題研究の絶好の教材がある</li> <li>しまね留学の関心が高まり、県外生が増加している。</li> </ul>	<p>Opportunities 機会 O</p> <p>Weaknesses W</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>奥出雲町の人口減少・少子高齢化</li> <li>町内中学生・保護者からの「学習」に対する評価の低さ</li> <li>町内の学習環境の少なさ</li> <li>JRなどの公共交通機関の不便さ</li> <li>核家族化</li> <li>多様化による選択肢の増加</li> <li>グローバル化の発展</li> <li>企業が求める社会人としての職業能力の変化</li> <li>ライフスタイル・働き方の価値観の変化</li> <li>AIなどの技術革新</li> <li>情報化社会</li> </ul>

以上の結果を踏まえ、本町の中高生を取り巻く環境について、課題と可能性について以下のとおり整理しました。

### 奥出雲町の課題

中山間地域にある奥出雲町では、生まれも育ちも似たような幼少期からほぼ変わらないメンバーでの狭い人間関係が高校卒業時まで続きます。それは、地域とのつながりを生み、安心で安定した地域環境の中で、生活できる一方で、生徒たちの関係性は固定化・序列化(※1)しやすく、「この子はこういう性格」「私はこの役割」と新しい個性が發揮されにくい傾向があります。また、多感で価値観の広がりを見せる中学・高校時代に、

生徒数が少なく、クラス替えもないような環境の中では、新たな価値観との出会いや新しい人間関係の構築もできず、価値観が同質化（※2）しやすい傾向にあります。新しい価値観を寛容に受け入れ、認め合い、尊重しあう環境や機会が乏しいこともあげられます。

そして、大きな集団の中で、切磋琢磨する経験がなく、刺激や競争も少ない（※3）ため、挑戦・成長しようという意欲やたくましさが生まれにくくい状況にあります。「自分はここまでしかできない」と自分の能力に限界をさだめ、自己の可能性を閉ざしてしまう傾向もあります。

### 生徒の心理と行動



### この地の可能性と強み

一方で奥出雲町には教育に活用しやすい地域資源が豊富にあります。特に町内小学生・中学生がふるさと教育の一環で学ぶ「たたら製鉄」がその一つです。奥出雲町は古来から「たたら」と呼ばれる伝統技術による製鉄が盛んに行われており、先人たちは自然の恩恵を最大限に生かしながら、環境循



町内小学生のたたら操業体験の様子

環型ともいえる産業としての技術を蓄積してきました。そして、今なお続く「ものづくり」の文化は、自然という「相手」を理解し、守りながらつくり続ける仕組みとして、そろばんや仁多米、そばなどに広がっています。

それと同時に住民の皆さんの学校に対する想いは熱く、協力を仰げば手を貸してくれる土壤ができています。町内企業や事業所が協力的であり、地域教育を進める上での人・モノ・コトは十分に揃っている環境と言えます。

また、奥出雲町には「ないもの」がたくさんあります。その限られた資源の中で、あるものを活かしながら、新しいものをつくりだしてきた先輩たちがいます。たとえば、図書館がなければ、民営図書館を、映画館がなければ、映画祭を、塾がなければ、民営塾を…という事例が数多くあげられます。このような精神を



セルフリノベーションによるコワーキングスペース

持つ住民の皆さんと協働で事業を実施することにより、不便で不自由な環境を逆手にとり、たくましい人間を育てるための地域教育を進めることができると確信しています。

## 5 横田高校魅力化ビジョンの必要性

本校は平成23年度より高校魅力化・活性化事業に取り組んできましたが、この活動は緒についたばかりであり、事業目的の達成に向け、既存事業の総括を踏まえた新しい戦略の立案と実行が必要です。また、これまでの取り組みにおいて、目指すべき将来像、その実現に向けた取り組みや役割分担があいまいな部分があり、総合的かつ体系的な取り組みが必ずしも十分ではありませんでした。

現在、過疎化や少子化などの影響により、定員割れが続いていること、今後の高校の存続が困難になることが予想されています。高校は「未来を担うひとづくり」を育成する存在として、生徒や保護者の方はもちろんのこと、地域の発展に尽くさなければいけません。そのためには、多くの課題に対して、高校はもちろんのこと、奥出雲町をはじめ関係機関がより一体となっていくことで総合的かつ体系的に各事業を進めていく必要があります。「横田高校魅力化ビジョン」は今後5年間において、本校が目指す将来像と実現に向けた施策や役割分担を高校内外で共有し、さらなる魅力化・活性化の推進を目指すために策定します。

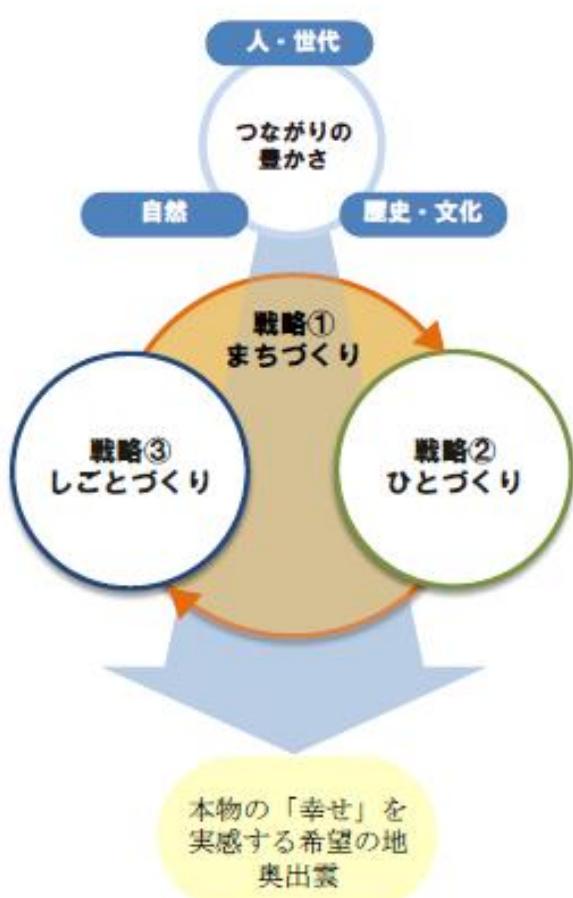
今後、本校が大きな飛躍と発展をしていくためにも、本町で生まれ、育っていく子どもたちは元より、周辺地域、さらには他県からも魅力を感じていただくための「魅力と活力ある高校づくり」に取り組んでいきたいと考えています。

## 奥出雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略

奥出雲町のまちづくりの基本構想である総合計画を基礎として、社会環境の変化、特に人口減少に関する動向を踏まえ、今後5年間において重点的に取り組むべき課題を抽出し、その解決策を具体化したものが「奥出雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。

横田高校魅力化については、総合戦略の中で、基本目標②のふるさと奥出雲を愛するひとづくりの中で「未来を担うひとづくり」として体系立てられました。

## 奥出雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略



### 基本目標

ふるさと奥出雲を愛するひとづくり

### 施策の方針

未来を担うひとづくり

### 施策

高校・専修学校の魅力化

本町に生まれ、本町で育った子ども達が、奥出雲を自分自身のふるさとと認識し、将来この地に貢献したいと思う愛郷心を育むことが求められています。

そのために、家庭教育を始め、幼稚園、小中高校、専修学校の活動を通じて、歴史、文化、自然、人との豊かなつながりと共にある暮らしの豊かさを伝え、誇りを育んでいきます。

## ■ 横田高校魅力化ビジョンが目指すもの

### 1 基本理念・基本方針・計画期間

#### 基本理念

## 未来を切り拓く「四方よし」のひとつづくり よんぽう

三大商人の一つと言われる近江商人が商いを通して到達した「三方よし」の精神を  
ひとつづくりの理念として置き換え、さらに時間軸の「未来」を加えた「四方よし」を、  
横田高校魅力化ビジョンの基本理念として取り組みます。

#### 基本方針

##### 1. わたしよし

自分に自信を持ち、自己の可能性と未来を信じる力を育てる。

##### 2. 仲間よし

自己の理解し、他者への思いやりを持ち、互いを高め合う力を育てる。

##### 3. 社会よし

郷土と日本、そして、世界を知り、社会の多様性を受容する力を育てる。

##### 4. 未来よし

未来への責任と創造する力を持ち、新しいことへ挑戦する力を育てる。

##### 5. 「四方よし」を地域で育てる

#### 計画期間

「横田高校魅力化ビジョン」の計画期間は、  
平成29年度から平成33年度までの5年間とします

## 2 目指す生徒像(魅力ある生徒像)

### 目指す生徒像（高校卒業時）

#### 「四方よし」の心を持ち、未来を描ける人材

目指す生徒像の柱になるのは「四方よし」の精神です。「四方よし」とは、「わたしよし・仲間よし・社会よし・未来よし」の4つで、「わたしよし」は、高校生活を通じて様々な学びと経験を積み、目標に向かって取り組むことができる生徒のことです。しかし自分だけが良くてもいけません。チームを意識し、ときには励まし刺激し合い、チームで目標に向かって協働するのが次の「仲間よし」です。そして、学校の中だけでなく、地域や日本、世界などの多様な社会と関わることで、地域社会に貢献する「社会よし」、さらに今だけでなく未来の発展につなげる視点を「未来よし」と位置付けます。

「四方よし」の原点になるのは「わたしよし」です。自分自身に自信をもつことで、他者や社会と交わることができ、さらには未来の発展を考えることができます。高校卒業時には、自分への自信と未来への希望を兼ね備えた生徒の育成を目指します。

### 10年後の人材像

#### 「四方よし」を実践し、未来を切り拓く人材

奥出雲には「たたら製鉄」をはじめ、人と自然を中心とする「暮らし」と「生業」が悠久の時代から引き継がれてきました。そして、世代から世代へ受け継いできた「つながりの豊かさ」があります。人・モノ・コトといった多様な資源から学び、社会に出たことで、「この地で生きたからこそ、世界への挑戦ができる」という地域を愛する心と誇りを持つとともに、自己への自信と未来への希望を兼ね備えた人材へと成長します。

そして、高校を卒業し、10年後には、自ら学び続ける力を持ち、挑戦し、行動し続けることで、自分自身の可能性をさらに広げ、奥出雲や世界など様々な舞台での活躍をする人材へと成長します。

また、本物の「幸せ」について考え続け、正解のない課題にも臆することなく、「ないならつくろう」と未来を切り拓く力を持つ人材へと成長します。

## わたし・仲間・社会・未来の四方よし

「四方よし」の人づくりの理念を「マインド×成長スキル」として、以下の通り示します。マインドとは、意識・心構えのことであり、成長スキルとは、生徒が成長するために必要な能力です。

### わたし

マインド	自分に自信を持ち、自己の可能性と未来を信じる。
成長スキル	自己実現力
自身のことや周りのことを、自分ごととして捉える責任感を持ち、可能性を信じて、自身の目標に向かって学び続ける力。	

### 仲間

マインド	自己を理解し、他者への思いやりを持ち、互いを高め合う。
成長スキル	コミュニケーション力
他者に共感できる感性や思いやりを持ち、相手の視点に立って物事を考える力。他者と目標を共有し、協働して取り組む力。	

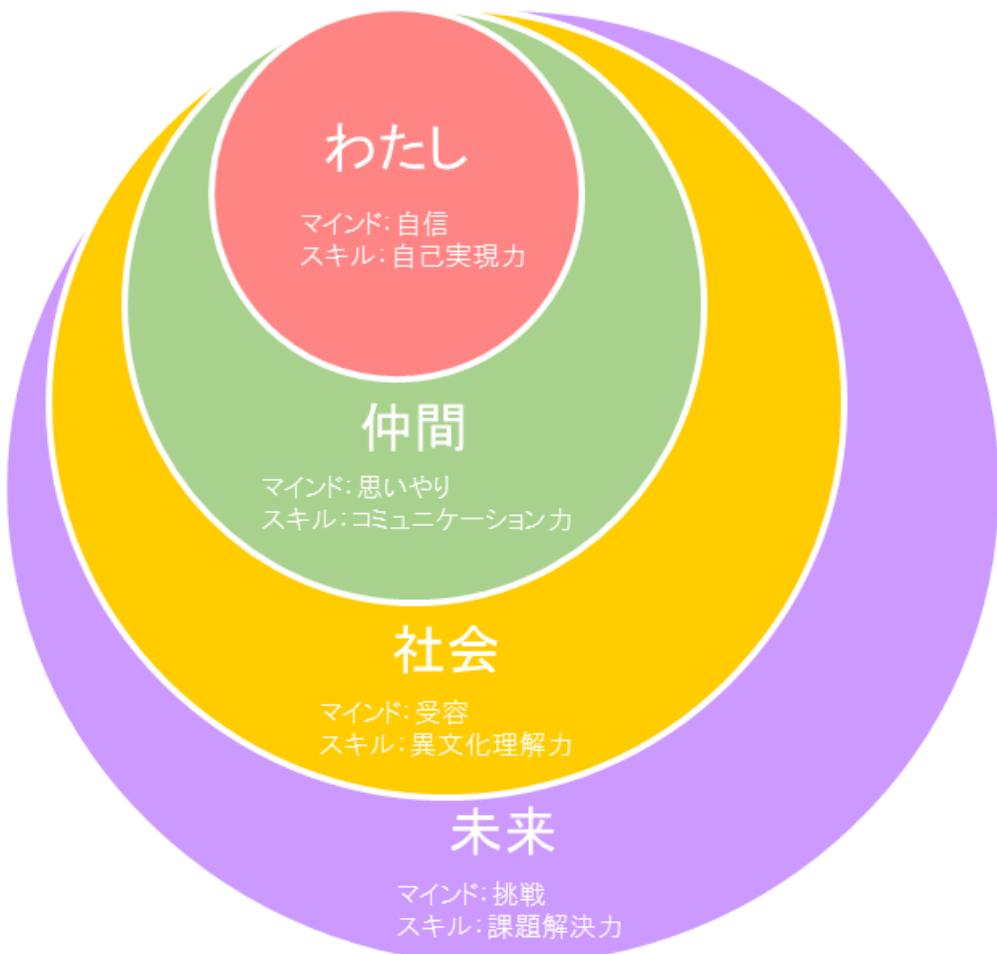
### 社会

マインド	郷土と日本、そして、世界を知り、社会の多様性を受容する。
成長スキル	異文化理解力
奥出雲・島根・日本の文化や歴史に誇りを持ち、異文化に積極的に関心を持ち、多様な価値観や文化を受け入れる力。	

### 未来

マインド	未来への責任と創造する力を持ち、新しいことへ挑戦する。
成長スキル	課題解決力
世界につながる課題を自らの問題と捉え、身近なところから取り組むことにより、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、未来への責任を持ち、未来を創造する力。	

## 基本理念:未来を切り拓く「四方よし」のひとづくり

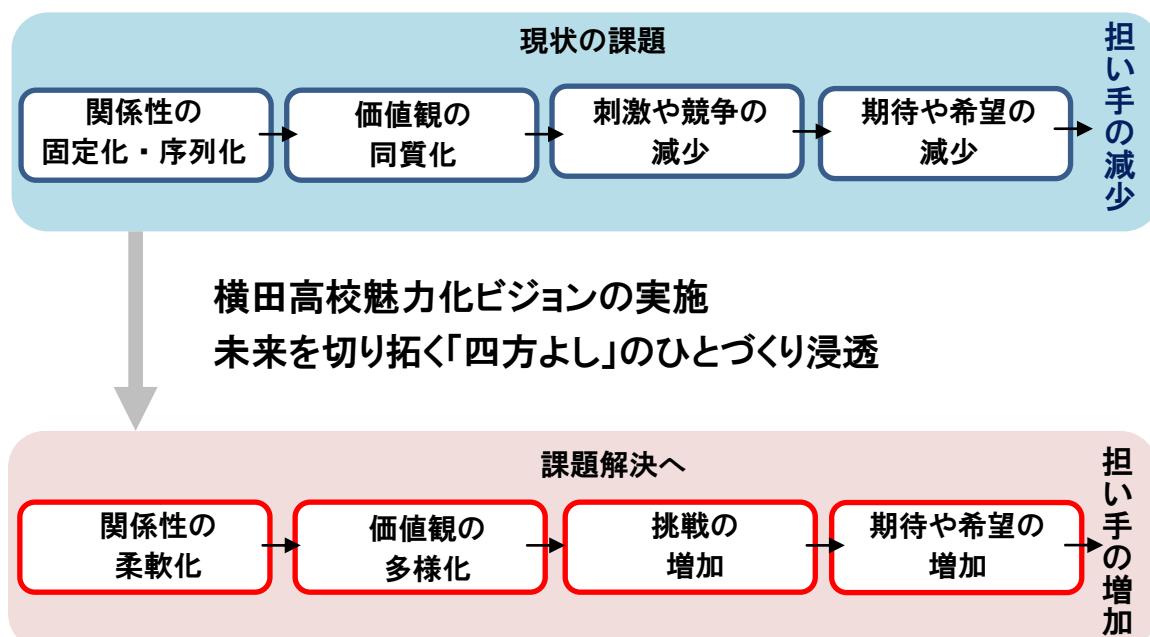


### 3 目指す学校像(魅力ある学校像)

- ・ 奥出雲町内唯一の高校として、地域社会の未来を担う人づくりに貢献します。
- ・ 幼児園・小中学校・高校・専門学校・大学など、奥出雲町内、または島根県内の教育機関と連携し、地域全体を学びの場とした教育を推進します。
- ・ これからの中を生き抜く「四方よし」の精神を持つ生徒を育成します。

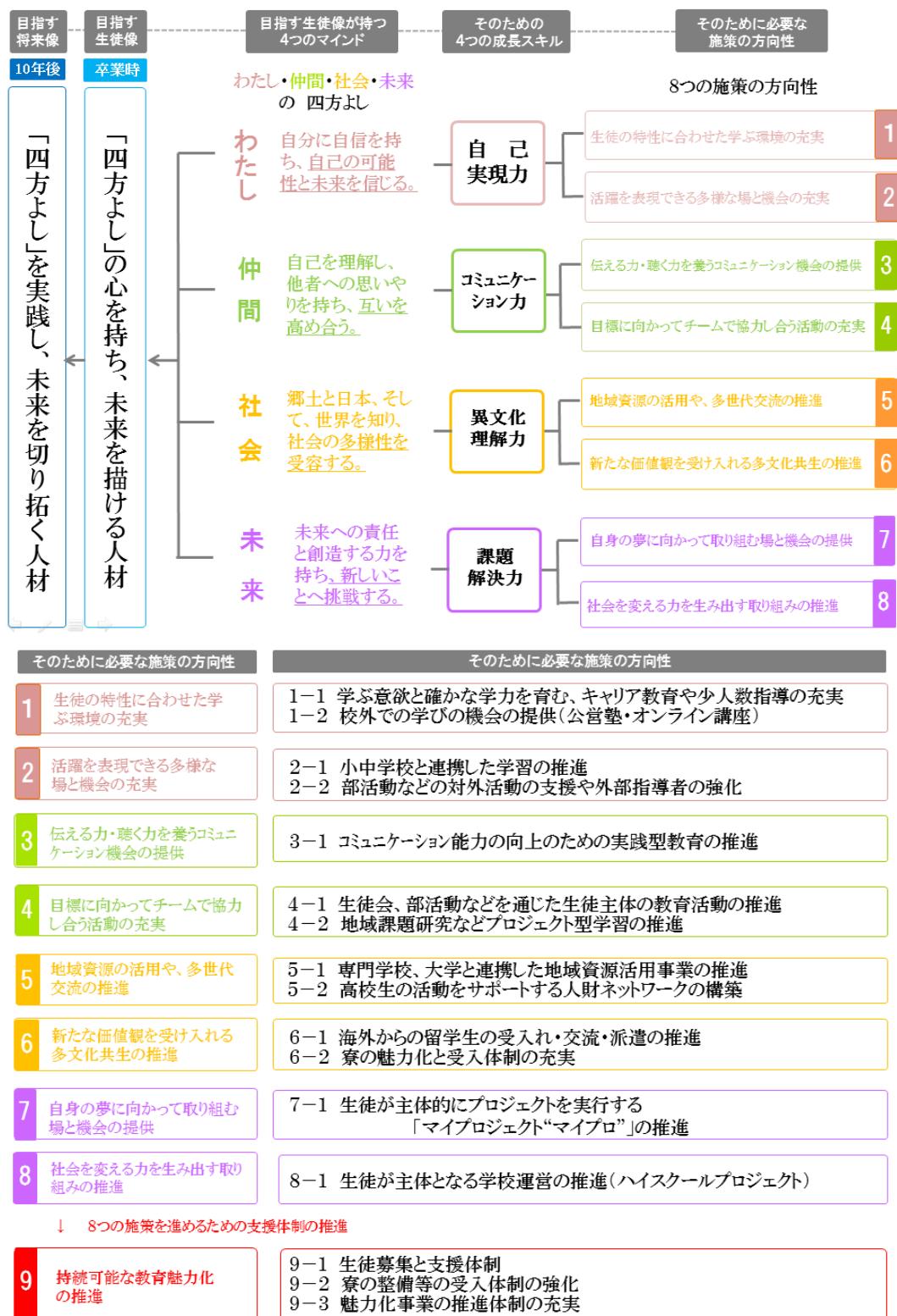
## 4 目指す地域像(魅力ある地域像)

- ・ 高校と地域がともに成長し続け、町中をまるごとキャンパスとして、地域で育てる環境を育みます。
- ・ この町なら成長・挑戦できるというこの町への希望をもつ生徒を増やし続けることで、地域の未来へ貢献する人材が増え、活気と魅力ある町づくりを目指します。



# 横田高校魅力化ビジョンの具体的な事業や取組み

## 1 実行プラン体系図



## 2 推進する施策

### 施策 1 生徒の特性に合わせた学ぶ環境の充実（01 わたし）

#### 現状と課題

本校では、平成26年度に1クラス減の3クラス（教員数減）となりましたが、町内唯一の県立高校として学びの環境を維持しなければなりません。

また、近年、家庭学習時間の低下や学ぶ意欲へのばらつきも見られます。奥出雲町には民間塾等も少なく、家庭以外の学習環境が乏しい状況にあります。校外の学習環境を整備し、学習意欲のある生徒に対して能動的に学習する場を提供する必要があります。

#### 具体的な取り組み

##### (1) 学ぶ意欲と確かな学力を育むキャリア教育や少人数個別指導の充実

就職から国公立大学進学まで、生徒の多様な進路を実現するために、きめ細かい学習支援体制の推進や、就職希望者に向けた検定の指導など、より専門性の高いコース内容への充実に取り組みます。また主体的・協働的で能動的な学び（アクティブ・ラーニング）への授業改革を推進します。



また、卒業後の進路に向けた具体的なイメージを描くため、町内外の企業や事業所へのインターンシップ事業を推進します。

取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
少人数個別指導の充実	多様な進路の実現に向けてきめ細かい学習指導に取り組む。生徒と教員がマンツーマンで、大学の過去問指導や小論文指導を行う個別添削や、選択科目別の少人数授業を実施する。	【継続】 H29 年度 も継続	学校評価アンケート（学力の向上）肯定的評価 80%以上
アクティブ・ラーニングの推進	授業手法の研鑽の他、アクティブ・ラーニングを推進するためのICT器材を活用する。	【強化】 H29 年度 より強化	
キャリア教育の	卒業後の進路に向けた具体的なイメージを	【継続】	学校評価アンケ

推進	描くキャリア教育に取り組む。企業へのインターンシップや大学訪問、職業ガイダンス、若手職業人の体験談を学ぶ「キミチャレ」を実施する。町内で人材が不足する医療職・介護職の担い手育成に向け、病院・施設と連携した取り組みを進める。特に町内人材不足分野である医療職、介護職などは病院・施設と連携して実施をはかる。	H29 年度も継続	ト(キャリア教育の推進) 肯定的評価 80%以上
全商検定(商業系検定)の取得の推進	総合コースの生徒を対象に、社会で活用できる商業系の資格取得を通じて、生徒のスキルアップに取り組む。また、上級資格の取得を目指すほか、新たに科目「簿記」を取り入れる。	【新規】 H29 年度より開始	資格取得率 総合コースの7割

## (2) 校外での学びの機会の提供（公営塾・オンライン講座）

家庭と学校以外で継続的に学習できるスペースを、町内施設を活用して整備するとともに、学力向上に向けた個別ニーズに対応できるオンラインの遠隔授業の導入や、民間塾・関係機関と連携し、自習室の整備や「公営塾」の設置を行います。



取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
自主学習室等の整備	校外での学習機会を充実させるために、町内の伝統産業会館など既存の施設を活用して「自習室」を整備する。また、公営塾の設置を行う。	【新規】 H29 年度より開始	自習室利用者月 100 人
オンライン講座の実施	生徒の個別のニーズに対応するために、パソコンや通信環境が整った遠隔授業が可能な場所を整備する。県外の大学生によるオンラインでの個別指導や、社会人講師の授業配信、勉強法などについての講義などを行う。	【新規】 H29 年度より開始	実施回数 12 回／参加人数 240 人

## 施策 2 活躍を表現できる多様な場と機会の充実（01 わたし）

### 現状と課題

奥出雲町教育委員会では小中学校において、たたら学習をはじめとするふるさと教育に取り組んでいます。また、横田高校でもだんだんカンパニーなどの地域と連携した学習に取り組んでいますが、小中高と連携した取り組みはほとんどありません。

横田高校ではこれまでホッケー部をはじめ、剣道部、陸上部、吹奏楽部など小規模の高校ながら、中国大会、全国大会に出場するなど立派な成績を収めています。本校の魅力や存在を対外的にアピールするうえで、部活動の活動の充実は必要です。また、一部の活動だけでなく少人数の部活動についても力を入れて欲しいという保護者からの声もあり、様々な生徒が活躍できる機会を作る必要があります。

### 具体的な取り組み

#### （1）小中学校と連携した学習の推進

小中学校で学んだふるさと教育を高校ではさらに発展させるために、小中学校間での情報交換を積極的に行うとともに、中高合同講演会を実施します。出張ハイスクールなど高校生が中学校に向けて発表するなど、発表機会を充実します。



取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
地域連携学習プログラムの充実	小中学校で取り組むふるさと学習との連携を図るために、中学校との情報交換を通して、高校のプログラムのさらなる充実をはかる。	【新規】 H29年度より開始	情報交換または授業交流年4回
中高合同講演会の実施	町全体で学習への意欲や関心を高めるために、県外から講師を招いた講演会を中高合同で実施する。	【継続】 H29年度も継続	実施回数年1回
出張ハイスクールの実施	高校生が小中学校において高校で学んだ地域連携学習の取り組みを発表するほか、放課後の学習や部活動支援など交流を深める。	【強化】 H29年度より強化	連携活動数6／学習機会3回

中高連絡会・教科会の実施	教職員交流（研修・学校訪問・授業参加による教科研究）の内容をさらに充実する。精選し実施する。	【強化】 H29年度より強化	連携強化数 5／実施回数 4回
--------------	--	-------------------	-----------------

## （2）部活動などの対外活動の支援や外部指導者の強化

吹奏楽部や写真部、放送部などの文化部を中心に、地域で音楽イベントや作品展を開催し生徒の活躍の機会をつくります。また、少人数の部活動についても地域の指導者の活用を行い、充実した活動ができるよう支援します。また、島根リハビリテーション学院との連携による専門指導や講師の招聘を通じて、全国や世界レベルでの活躍を



目指します。また、このような活動を学校PRに生かすほか、小中高の連携した合同練習や体験入部などを行い、本校に対する関心や意識を高める取り組みも行います。

取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
奥出雲バンドフェスティバルや地域音楽祭の開催	生徒や指導者の交流と、地域の方に向けた学校PRを目的に、コミュニティセンターなどを活用し、中高合同で開催する。	【継続】 H29年度も継続	実施回数 3回
美術部や写真部などの地域作品展の開催	制作意欲の向上と、地域の方に向けた学校PRを目的に、コミュニティセンターなどで作品展を開催する。	【継続】 H29年度も継続	年1回の定期開催（部活動）
放送部と地域の連携活動の推進	アナウンス技術の向上や放送現場を学ぶ機会、学校PRを目的に番組づくりに関わる。	【新規】 H30年度より開始	実施回数年6回 番組コーナー確保
地域指導者の活用	吹奏楽部、女子バスケットボール部、男女バレーボール部など、各部のレベルアップを目的に、地域の指導者に依頼する。	【継続】 H29年度も継続	地域指導者登録6人
専門指導者や講師の招聘	島根リハビリテーション学院や大学機関との連携によりスポーツトレーナーなどの招聘を行う。	【強化】 H29年度から強化	年3回の連携指導実施
中学校部活動との合同練習や体験活動の実施	中学校の部活動との合同練習や、中学生の体験入部を実施する。	【継続】 H29年度も継続	部活動の体験入部2回以上実施

### 施策 3 伝える力・聴く力を養うコミュニケーション機会の提供（02 仲間）

#### 現状と課題

これからの中学校を生き抜くためには、コミュニケーション力が必要不可欠です。自己を理解するだけでなく、他者への思いやりを持ち、互いを高め合う風土を学校全体でつくりあげることで、生徒のコミュニケーション能力を高め、心身ともに豊かな人間への成長を促すことが期待されます。

本校は、これまで人権同和学習や、教科学習や東京研修、学園祭などにおいてクラス内、学年内、他学年などの関わりを通じて、他者との関わり方を学んできました。しかしながら、中山間地特有の固定化された人間関係の中で育ってきていたりいる生徒が多いため、「あ、うん」の呼吸でコミュニケーションをとってきた生徒も多い状況です。

#### 具体的な取り組み

##### （1）コミュニケーション力の向上のための実践型教育の推進

社会で実践できるコミュニケーション力の向上に取り組みます。教科の学習での発表や話し合いの機会に加え、地域の社会人との対話や「だんだんカンパニー」の販売実習など実践的なコミュニケーションをとる機会を充実します。



取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
ディベート学習や脚本作り、表現活動の充実	「国語」「英語」「情報」「芸術」など教科学習を通じたディベート学習や脚本づくり、映像制作、プレゼンテーションなどの表現活動に取り組む。	【継続】H29年度も継続	5科目以上で実施
対外的なプレゼンテーション機会の充実	東京で都市部の方に向けた販売実習やPR活動、大学生に向けた地域課題研究の発表に取り組む。	【継続】H29年度も継続	学校評価アンケート（総合的な学習の時間の充実）肯定的評価80%以上
地域インタビューの実施	社会人との対話や、事業所等へのインタビューなど機会の充実をはかる。	【継続】H29年度も継続	

## 施策 4

## 目標に向かってチームで協力し合う活動の充実（02 仲間）

### 現状と課題

1年生が取り組む「奥出雲学」は、地域と連携して課題解決の手法を学ぶ横田高校ならではの取り組みです。調べ学習、プレゼンテーション、フィールドワークなどの授業は、4人前後のチームで取り組むことを基本とするため、コミュニケーション力の育成につながります。

一方で、あらかじめ計画されたプログラムにそって実施するため、生徒有志が集まって企画するような柔軟な活動は生まれにくい問題があります。今後は生徒有志の自主的なボランティアの取り組みなどを応援する必要があります。

### 具体的な取り組み

#### （1）生徒会、部活動などを通じた生徒主体の教育活動の推進

生徒会を中心に、生徒の主体的な動きが生まれるように支援します。生徒による地域ボランティアや、奥出雲町のまちづくり活動に関わる地域系活動を推進します。



取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
地域系活動の推進	農業、観光、まちづくり活動、ボランティア活動へ生徒が参加しやすい仕組みをつくる。生徒会またはクラブ活動として取り組むなど、継続的に実行する。	【新規】 H29年度より開始	魅力化アンケート (地域貢献度) 5%アップ
少人数クラブ活動の推進	英会話を学ぶインターナショナルクラブの活動を推進するほか、少人数でも生徒が主体的に取り組む活動を支援する。	【新規】 H29年度より開始	魅力化アンケート (多文化共生理解) 5%アップ

## (2) 地域課題研究などプロジェクト型学習の推進

プロジェクト型学習とは、生徒自ら課題を発見し、目標を明確にして情報を集め、課題解決していく学習方法です。奥出雲町の現状を学び、課題について調べるだけでなく、どうすれば解決できるのか、どうすれば地域の魅力を高めることができるかなど具体的なプランを提案し、実現を目指します。

取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
「奥出雲学」 (1年生)	奥出雲町の現状について講義やフィールドワークで学び、奥出雲の魅力を高めるプランの提案などを行う。	【強化】 H29年度より強化	魅力化アンケート (地域貢献度) 5%アップ ／提案に対する実践数 10%
地域課題研究 (2年生)	生徒が関心ある地域課題をテーマに、調査研究または実証研究を行う。	【強化】 H29年度より強化	魅力化アンケート (地域貢献度) 5%アップ ／提案に対する実践数 10%

## 施策 5 地域資源の活用や多世代交流の推進（03 社会）

### 現状と課題

平成23年度から取り組んでいる仮想会社「だんだんカンパニー」は、総合コースの生徒が中心となり、地元企業や農家などの協力のもと地域の資源を理解し活用する活動として定着してきています。今後はさらなる専門的な内容が習得できるようプログラムの内容を高めていかなければなりませんが、実業高校ではないため、商業科の教員が少なく、指導の手が足りない状況です。一方、総合コースだけでなく、大学進学で奥出雲を離れる進学コースの生徒こそ、奥出雲の地域課題を学ぶ機会を充実させたほうがいいという教員の声があり、平成27年度から2年次に地域課題研究をスタートさせました。奥出雲の観光や空き家活用、農業などをテーマにインタビュー調査などを通して研究を深め、研究の成果を法政大学や青山学院大学、東京農業大学などで発表しました。

これまで、高校生の活動に対して、地域の方にたくさんのご支援やご協力をいただいています。しかしながら、山間部特有の問題でもありますが、幼小中と固定化された人間関係の中で育ってきている生徒が多い状況にあります。また町内で高校生が大学生や若い世代と接することがなく、卒業後のロールモデルと出会う機会があまりありません。また、町内には理学療法士・作業療法士の育成を目指す「島根リハビリテーション学院」、「島根デザイン専門学校」があり、連携も期待されています。

### 具体的な取り組み

#### （1）専門学校、大学と連携した地域資源活用事業の推進

「だんだんカンパニー」のプログラムのさらなる充実に取り組みます。農作物だけにとどまらず、観光資源や資源環境を生かした観光プランや商品づくりなど新たな企画に取り組みます。また、企画の実現に向けてリハビリテーション学院やデザイン専門学校や大学など上級学校との連携に取り組みます。



取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
仮想会社「だんだんカンパニー」の充実	仁多米やブルーベリージャムの販売のほか、神話やたら遺産や吾妻山など地域資源などを活用した取り組みを行う。	【強化】 H29年度より強化	魅力化アンケート（地域貢献度・異文化理解関心）5%アップ
地域指導者や専門講師との連携	専門知識を持つ講師を招き、商品企画や経営、組織について学ぶ機会を増やす。	【強化】 H29年度より強化	魅力化アンケート 課題発見力 5%アップ
町内専門学校からの講師、学生の招聘	商品コンセプトやユニバーサルデザインなど専門的知識をもつ講師や学生を招いた講義の実施。	【強化】 H29年度より強化	
大学連携の推進	地域課題研究において、大学生との意見交換や研究へのサポートの協力依頼。	【強化】 H29年度より強化	魅力化アンケート (地域貢献度・異文化理解関心) 5%アップ

## (2) 高校生の活動をサポートする人材ネットワークの構築

地域の有志やNPO団体との協力のもと、高校生の活動をサポートするネットワーク組織をつくります。高校生に対して、若手社会人の方が自身の経験を話すなど相談にのったり、農業の体験活動を受け入れたり、寮生の休日の自然体験などをサポートするなど、地域の方が高校生と関わりやすい仕組みをつくります。



また、横田高校を卒業した大学生や、高校の活動に賛同してくれる県内・県外大学生とのネットワークをつくり本校の生徒が接する機会をつくります。

取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
高校生の活動を支援する地域の応援団体の設立	農業体験、地域ボランティアなど様々な体験を支援してくれる地域の方を募集し、マッチングをはかる。	【新規】 H29年度より開始	支援登録者数 20人・参加高校生20人
卒業生した大学生や若手社会人とのネットワークづくり	大学生に地域連携授業の運営ボランティアや、放課後の学習指導などの協力を得る。また、他校と連携し島根出身者の大学生ネットワークづくりを行う。	【新規】 H30年度より開始	参加大学生20人

## 施策 6 新たな価値観を受け入れる多文化共生の推進（03 社会）

### 現状と課題

経済のグローバル化が進む昨今、企業も海外との取引や訪日観光客の増加に向けた様々な取り組みが行われています。これからの中長期、社会の一員を担う高校生は、グローバル化など社会の変化に対応するために、新たな価値観や異文化を受け入れる力を身につけることが必要です。

本校は平成28年度にタイからの留学生を迎える、また隔年に米国ストリームウッド高校の奥出雲町訪問の際に本校生徒との交流を進めています。しかしながら、山間部特有の課題として生徒が町内で日常的に外国語などの異文化に触れる機会は非常に少ない状況にあります。

また学生寮では、全国各地の様々な地域で育った生徒が一緒に生活をしています。これまで寮生は学校・部活動と寮との往復が生活の中心であり、地域とのつながりはあまりありませんでした。しかしながら、平成27年度から寮生と地域の方の食事交流会（月1回）がスタートし、寮生と地域の方との交流も少しずつ広がっています。

### 具体的な取り組み

#### （1）海外からの留学生の受け入れ・交流・派遣の推進

異文化を理解し、地域で活躍できる人材（グローカル人材）の育成につなげることを目的とし、ストリームウッド高校との交流に加え、留学生の受け入れだけでなく、新たに生徒の海外派遣制度の創設を検討します。



取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
ストリームウッド高校との交流事業	異文化コミュニケーションを身に着けけることを目的に、スポーツや文化交流や合同授業。	【継続】H29年度も継続	魅力化アンケート 異文化理解関心 5%アップ／ 20人受入
グローカル人材の育成講演会の実施	グローカル人材を目指す意義について学ぶために、外部から講師を招き、講演会の実施。	【継続】H29年度も継続	魅力化アンケート 異文化理解関心 5%アップ／

			実施回数 1 回
留学生受入れ	日常的に異文化に触れるために、長期または短期の留学生を受け入れる。	【強化】 H29 年度から 強化	魅力化アンケート 異文化理解関心 5%アップ <sup>°</sup> / 毎年 1 人
留学生派遣制度	「集中して語学力の向上を目指したい」「世界に通じるグローバルな人間になりたい」など、意欲的な高校生を対象に、経済的な負担を軽減するため、留学生派遣制度の設置。	【新規】 H29 年度から 新規	魅力化アンケート 異文化理解関心 5%アップ <sup>°</sup> / 派遣人数 3 人

## (2) 寮の魅力化と受入れ体制の充実

県外から入学した生徒が充実した高校生活が送れるように、奥出雲町の文化に触れ、地域の方々との定期的な交流を進めるホストファミリー（地域ふれあい家族）を募集します。また、生活面の自立だけでなく、育った環境が違う者同志で新たな人間関係をつくり、学習や部活動等で刺激し合い、成長につながる魅力ある寮をつくります。

取り組み内容	内容	実施年	指標(5 年後)
ホストファミリー（地域ふれあい家族）の充実	県外生に奥出雲の文化を知ってもらうために、地域の方をホストファミリーとする民泊体験・交流を行う。	【強化】 H29 年度から 強化	受け入れ家庭 20 家庭
寮の魅力化（自主自立）	寮のなかでのルールづくりや、運営に生徒が携われる機会をつくる他、地域の活動へ主体的に参加するようにはかっていく。	【新規】 H29 年度から 新規	寮生アンケート自主自立の精神 20% アップ <sup>°</sup>

## 現状と課題

これまで本校は「与えられた課題を解く力」だけでなく、「答えのない問題を解く力」を身に付けるために、地域や企業等の協力を得ながら「奥出雲学」などで少子化や空き家など地域課題をテーマに解決策について考える取り組みを行ってきました。このような取り組みを通じて、生徒は「地域の課題に関心を持った」「将来、地域に貢献したい」「自分も何かやってみたい」と地域に対する興味や課題意識は確実に高まっています。

一方で、このような授業は、学年全体やあらかじめ決められたグループで取り組むため、生徒一人ひとりの興味や関心、将来目指す職業とは必ずしも結びついてはいません。「料理人になりたい」「プログラマーになりたい」「奥出雲にこんなのがあったらしいのに」など、生徒一人ひとりが自身の夢や目標に向かって考えをめぐらせるることはできますが、「奥出雲の食材を使った料理を学びたい」「プログラミングに触れたい」など、具体的な活動を実践するには、部活動や生徒会以外では個別に対応することに限界があります。幸い、本校に対して、地域の様々な方が応援していただき、これまでも農業に関心がある生徒に農作業ボランティアに声をかけていただいたり、海外に興味がある生徒に留学体験を聞かせてあげたりするなど、たくさんの協力をいただいている。

## 具体的な取り組み

### (1) 生徒が主体的にプロジェクトを実行する「マイプロジェクト“マイプロ”」の推進

「マイプロジェクト “通称マイプロ”」とは、慶應義塾大学（SFC 井上研究室）から開発・実践されてきた教育手法として、高校生や震災復興、まちづくりや企業の人材研究などでも取り入れられ、全国に広がりつつあります。高校生が普段の生活や地域のなかで感じている「こうだったらいいのに」「こんなことをしてみたい」という些細な疑問や違和感、問題意識から、プロジェクトを立ち上げて、実行する高校生の活動です。



マイプロの実施については施策5－2で示した「高校生の活動をサポートする人材ネットワーク」と連携を図り、生徒が主体的に取り組む活動ができるようサポートします。

小規模の学校だからこそ、一人ひとりの生徒の夢や「やってみたいこと」の実現に向けて、学校だけでなく、地域全体で応援する体制を作ります。

取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
「マイプロ」勉強会	マイプロについての考え方や全国の事例を学ぶためのワークショップを生徒や地域の方に向けに開催する。また、自分の興味関心をプロジェクトに作り上げる。	【新規】 H29 年度から開始	参加人数 10人
「マイプロ」の実践	高校生が考案したプロジェクトを実践し、活動の PR を行う。 例) 「高校生が企画・案内する外国人向け奥出雲観光プラン」「プログラミング体験教室 in 奥出雲」	【新規】 H29 年度から開始	魅力化アンケート将来地域貢献度 5%アップ／マイプロ実施数 5件

## 現状と課題

平成28年に公職選挙法が改正され、18歳選挙権が実現することになりました。「社会のなかで自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を養う（文科省）」として「主権者教育」の期待も高まっています。しかしながら「主権者教育」の推進については始まったばかりであり、全国各地の高校でも模擬投票の実施などにとどまっています。

一方、ビジョン策定委員会のなかで「本校の生徒は、従順で素直で良い面もあるが、先生に従うだけで、何か疑問に思ったときに、声にだして変えようという気概はない」「生徒たちは学校に意見を言っても変わらないと思っている」という意見がありました。これは本校だけでなく、日本の多くの高校生が感じていることです。学校の規則に生徒を縛るだけでは、政治や社会に关心など持てません。

本来、生徒会は学校運営の一端を担っていますが、現状は学園祭などの行事の運営、広報誌の発行が中心となっています。例えば、生徒会から学校について提案し、小さな動きでも、それが実現につながることで「自分たちの力で学校は今よりもっと楽しくなる」「自分が動けば社会は変わる」という未来を拓く力の育成につながります。

## 具体的な取り組み

### (1) 生徒が主体となる学校運営の推進（ハイスクールプロジェクト）

生徒自らが学校や地域の問題点に気づき、解決に向けたための取り組みを推進します。県内魅力化実施校を対象として開催された「ハイスクールプロジェクト（主催 島根高校魅力化プラットフォーム）」と連携しながら実践に向けて取り組みます。

取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
ハイスクールプロジェクトへの合宿参加	生徒有志によるプロジェクトづくりと、実践の推進。	【新規】H29年度から開始	参加人数 10人
高校生による学校魅力化事業の推進	学校全体を巻き込んだ生徒が主体的になって進めるプロジェクトの実践。 例) 横田高校の制服魅力化プロジェクト 校舎中庭の活用プロジェクト。	【新規】H29年度から開始	実施数 3件

**現状と課題**

平成30年より地元中学校の生徒数は90人台が続き、このままいくとさらなるクラス減、教員定数減が予測されます。高校に専門的な力量をもつ教員を多く配置し、選択科目の充実や、部活動、生徒会など生徒の活動が活発となり、高校の魅力が高まっていくには生徒数の確保は最重要課題です。これまで、コース制の導入や重点部活動の支援、通学費助成、学校案内やホームページのリニューアルなどに力を入れた結果、県外からの問い合わせや視察の増加など効果は現れています。しかし、町内の特に仁多地区の中学生や保護者からは、「本校の情報が入ってこない、進路や学習面の取り組みが分からぬ」という声が多く、情報発信の手法や生徒や保護者の要望に応えられるよう、発信内容の改善を図る必要があります。

また、本校の寄宿舎「紫雲寮」は平成8年に設立し、県内では比較的小規模な定員24名の寮です。これまで広瀬、雲南、鳥取県日南など通学困難な地域や、広島、岡山、兵庫から、ホッケーでの活躍を志す生徒が生活をしています。また平成26年度からは、県内他校と合同で「しまね留学合同説明会」を行い、関東からの入学生も在籍しています。平成28年度の寮生17名のうち、県外生は11名ですが、今後、積極的な生徒募集活動により町外や県外生が増えることも予想されます。

横田高校魅力化・活性化事業において、情報発信や地域連携の取り組みを強化するために、平成26年度から魅力化コーディネーターの配置を行いました。現在、2名のコーディネーターを配置していますが、魅力化ビジョンの実現に向けて、高校、地域、奥出雲町、小中学校、関係機関と連携し、効果的な推進体制を構築する必要があります。

**具体的な取り組み****(1) 生徒募集と情報発信の強化**

本校へ通学する生徒保護者の経済的負担を減らすための助成制度のほか、本校に興味を持つもらうための積極的な情報発信に取り組みます。中学校との情報交換を密におこない、オープンハイスクールの参加者増に向けたPR活動や、中学校へのスカウト活動、部活動体験の機会を増やすなど多方面からのアプローチを行います。



県外生徒募集については、東京・大阪での合同説明会の開催のほか、本校に見学に来てもらうツアーや部活動体験の機会を充実させます。情報発信については、ホームページやSNS や学校だより、コーディネーター通信の町内回覧や全戸配布のほか、地元ケーブルテレビでの番組づくり、プロモーション動画の作成などまた、行事や地域連携の取り組み、部活動だけでなく、課題としてあげられた授業内容や進路指導など中学生や保護者のニーズにあった情報を提供します。

取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
通学費助成・寮費補助	経済的負担減のために、JR・バスの定期代の1／3を補助や、寮費の一部を補助	【継続】 H29 年度 も継続	地元入学率 7 5% 県外入学生 1 学 年あたり 15 人
オープンハイスクールの充実	中学生を対象に、高校の雰囲気や授業、部活動体験、寮見学などを行う。参加者のニーズに応じたプログラムを提供できるように内容を充実する。	【強化】 H29 年度 より強化	町内生 90 % 参 加／県内町外 30 名／県外 20 名参加
県外説明会や見学ツアーやの実施	県内他校と連携した「しまね留学」合同説明会の開催や、奥出雲の生活環境や文化を直接感じてもらうために、ツアーやを実施する。	【継続】 H29 年度 も継続	参加者数 20 人
情報発信の充実	中学校での高校説明会、ホームページやSNS の活用、学校生活がイメージできる学校案内・動画の作成、町内回覧、全戸配布による学校便りの配布、ジョーホー奥出雲での番組制作など  ※行事だけでなく、学習や進路指導についても情報の発信を行う。	【継続】 H29 年度 も継続	学校便り毎月、 町内回覧年 6 回、全戸回覧年 2 回の発行 HP 週 1 更新 ユーザー数月間 平均 3000 ※2600 (H28) 2000 (H27)

## (2) 寮の整備等の受入れ体制の強化

今後、さらなる町外からの生徒増を踏まえて、寮の整備や下宿などの受入れの体制について検討、強化していきます。町内生徒数の減少に備えて、町外生徒の受入可能人数を、現在の1学年あたり8人前後から、1学年あたり15人前後の受け入れができる体制を整備します。

取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
寮の整備についての検討・推進	寮の拡充を図り、全国からの生徒を受け入れ、地元の生徒と全国から集まつた生徒とが切磋琢磨できる環境を検討、推進する。	【新規】 H29年度より強化	町外生徒の受入可能人数の増加 学年あたり 15人
地域での受入体制の強化	年間を通じて町外生が生活できる下宿等を確保し、支援する。	【強化】 H29年度より強化	町外生徒の受入可能な下宿先 10組

### (3) 魅力化事業の推進体制の充実

横田高校魅力化ビジョンの実現に向けて、高校、奥出雲町、コーディネーターの役割分担を明確にし、施策の改善や実施の検討を定期的に行い、ビジョンの実現に向けた体制を構築します。また、ビジョンについて生徒、保護者、小中学校、関係機関、地域の方々に向けての周知に取り組みます。

取り組み内容	内容	実施年	指標(5年後)
効果的な推進体制の構築	高校、奥出雲町、コーディネーターなどの役割分担を明確にし、効果的な推進体制を構築する。	【強化】 H29年度より強化	推進会議年3回
コーディネーターの配置	魅力化コーディネーターの配置を継続し、効果的効率的な事業実施を行う。	【強化】 H29年度より強化	全プログラムの実施／魅力化アンケート評価全体 15% アップ

### 3 成果指標と目標

成果指標と目標を次のように定めます。目標値は計画期間である5年間での達成目標とします。なお、1年ごとに現状値を測り、取り組みを検証します。

#### 横田高校の3クラス維持を目指す

	平成30年 3月末	平成31年 3月末	平成32年 3月末	平成33年 3月末	平成34年 3月末
入学者数  (うち町外入学者数)	81人  (町外10人 県外7人)	83人  (町外10人 県外8人)	90人  (町外10人 県外8人)	93人  (町外10人 県外8人)	95人  (町外10人 県外8人)
町内から横田高校への進学率  仁多中／横田中	60%／80%	63%／83%	65%／85%	65%／85%	65%／85%

平成25年度～28年度 県外入学生	1学年あたり4人～5人
平成30年度～平成34年 県外入学生	1学年あたり8人前後

#### ※魅力化アンケートの実施

本ビジョンの効果を図るために、年度ごとにアンケートを実施する。

- ・生徒一人ひとりの3年間の数値の変化を比較
- ・事業実施初年度と5年度の比較

#### 5年後の横田高校の姿(総合戦略より抜粋)

自分の未来に夢を持ち、様々なことに積極的にチャレンジし、地域との関わりを持つとする生徒・学生が増えることにより、高校の魅力が高まり入学者が増える。

## ■ 横田高校魅力化ビジョンの推進体制と役割分担

### 1 推進体制

---

施策 1

#### 生徒の特性に合わせた学ぶ環境の充実

具体的な施策	役割分担						開始年度
	横田高校	奥出雲町	コーディネーター	小中学校	住民・関係機関	高校後援会・推進会議	
<b>学ぶ意欲と確かな学力を育むキャリア教育や少人数個別指導の充実</b>							
少人数個別指導の充実	◎						継続
アクティブ・ラーニング推進	◎		○				強化
キャリア教育の推進	◎	○	◎		○		継続
全商検定の取得の推進	◎				○		新規
<b>校外での学びの機会の提供（公営塾・オンライン講座）</b>							
自主学習室等の整備	○	◎	◎		○		新規
オンライン講座の実施	○	○	◎		◎		新規

施策 2

#### 活躍を表現できる多様な場と機会の充実

具体的な施策	役割分担						開始年度
	横田高校	奥出雲町	コーディネーター	小中学校	住民・関係機関	高校後援会・推進会議	
<b>小中学校と連携した学習の推進</b>							
地域連携学習プログラムの充実	◎		◎	○	○		新規
中高合同講演会の実施	◎			○			継続
出張ハイスクールの実施	◎		◎	○			強化
中高連絡会・教科会の実施	◎			◎			強化
<b>部活動などの対外活動の支援や外部指導者の強化</b>							
バンドフェスティバルや地域音楽祭の開催	◎	○	○	○	○		継続

美術部や写真部などの地域作品展	◎		◎		○		継続
放送部と地域の連携活動の推進	○	○	◎				新規
地域指導者の活用	◎	○	○		○		継続
専門指導者や講師の招聘	◎	○	◎		○		強化
中学部活動との合同練習など	◎			○			継続

### 施策 3 伝える力・聴く力を養うコミュニケーション機会の提供

具体的な施策	役割分担						開始年度
	横田高校	奥出雲町	コーディネーター	小中学校	住民・関係機関	高校後援会・推進会議	
<b>コミュニケーション力の向上のための実践型教育の推進</b>							
ディベート学習や脚本作り、表現活動の充実	◎		○				継続
対外的なプレゼンテーション機会の充実	○		◎		○		継続
地域インタビューの実施	○		◎		○		継続

### 施策 4 目標に向かってチームで協力し合う活動の充実

具体的な施策	役割分担						開始年度
	横田高校	奥出雲町	コーディネーター	小中学校	住民・関係機関	高校後援会・推進会議	
<b>生徒会、部活動などを通じた生徒主体の教育活動の推進</b>							
地域系活動の推進	○	○	◎		○		新規
少人数クラブ活動の推進	○	○	◎		○		新規
<b>地域課題研究などプロジェクト型学習の推進</b>							
奥出雲学	○	○	◎		○		強化
地域課題研究	○	○	◎		○		強化

## 施策 5

## 地域資源の活用や多世代交流の推進

具体的な施策	役割分担						開始年度
	横田高校	奥出雲町	コーディネーター	小中学校	住民・関係機関	高校後援会・推進会議	
<b>専門学校、大学と連携した地域資源活用事業の推進</b>							
仮想会社「だんだんカンパニー」の充実	○	○	◎		○		強化
地域指導者や専門講師との連携	○	○	◎		○		強化
町内専門学校からの講師、学生の招聘	○	○	◎		○		強化
大学連携	○	○	◎		○		強化
<b>高校生の活動をサポートする人材ネットワークの構築</b>							
高校生の活動を支援する地域の応援団体の設立	○	◎	○		○		強化
卒業生した大学生や若手社会人とのネットワークづくり	◎	○	◎		○		強化

## 施策 6

## 新たな価値観を受け入れる多文化共生の推進

具体的な施策	役割分担						開始年度
	横田高校	奥出雲町	コーディネーター	小中学校	住民・関係機関	高校後援会・推進会議	
<b>海外からの留学生の受入れ・交流・派遣の推進</b>							
ストリームウッド高校との交流事業	○	○	◎		○		新規
グローカル人材の育成講演会の実施	◎	○	○		○		新規

留学生受入れ	○	○	◎		○		強化
留学生派遣制度	○	◎	○		○		新規
<b>寮の魅力化と受入れ体制の充実</b>							
ホストファミリー（地域ふれあい家族）の推進	○	◎	○		○		強化
寮の魅力化（自主自立）	◎		○		○		新規

### 施策 7 自分の夢に向かって取り組む場と機会の提供

具体的な施策	役割分担						開始年度
	横田高校	奥出雲町	コーディネーター	小中学校	住民・関係機関	高校後援会・推進会議	
<b>生徒が主体的にプロジェクトを実行する「マイプロジェクト“マイプロ”」の推進</b>							
「マイプロ」勉強会	○	○	◎		○		新規
「マイプロ」の実践	○	○	◎		○		新規

### 施策 8 社会を変える力を生み出す取り組みの推進

具体的な施策	役割分担						開始年度
	横田高校	奥出雲町	コーディネーター	小中学校	住民・関係機関	高校後援会・推進会議	
<b>生徒が主体となる学校運営の推進（ハイスクールプロジェクト）</b>							
ハイスクールプロジェクトへの合宿参加	○	○	◎		○		新規
高校生による学校魅力化事業の実施	◎	○	○		○		新規

## 施策 9

## 持続可能な教育魅力化の推進

具体的な施策	役割分担						開始年度
	横田高校	奥出雲町	コーディネーター	小中学校	住民・関係機関	高校後援会・推進会議	
<b>生徒募集と支援体制</b>							
通学費助成・寮費補助	○	◎					新規
オープンハイスクールの充実	○	○	◎		○		新規
県外説明会や見学ツアーの実施	○	○	◎	○	○	◎	新規
情報発信の充実	○	○	◎				
<b>寮の整備等の受け入れ体制の強化</b>							
寮の整備についての検討・推進	○	◎	○			○	強化
地域での受入体制の強化	○	◎	○		○		強化
<b>魅力化事業の推進体制の充実</b>							
効果的な推進体制の構築	○	○	○		○	◎	強化
コーディネーターの配置	○	◎	○			○	強化

## 2 施策推進における役割分担

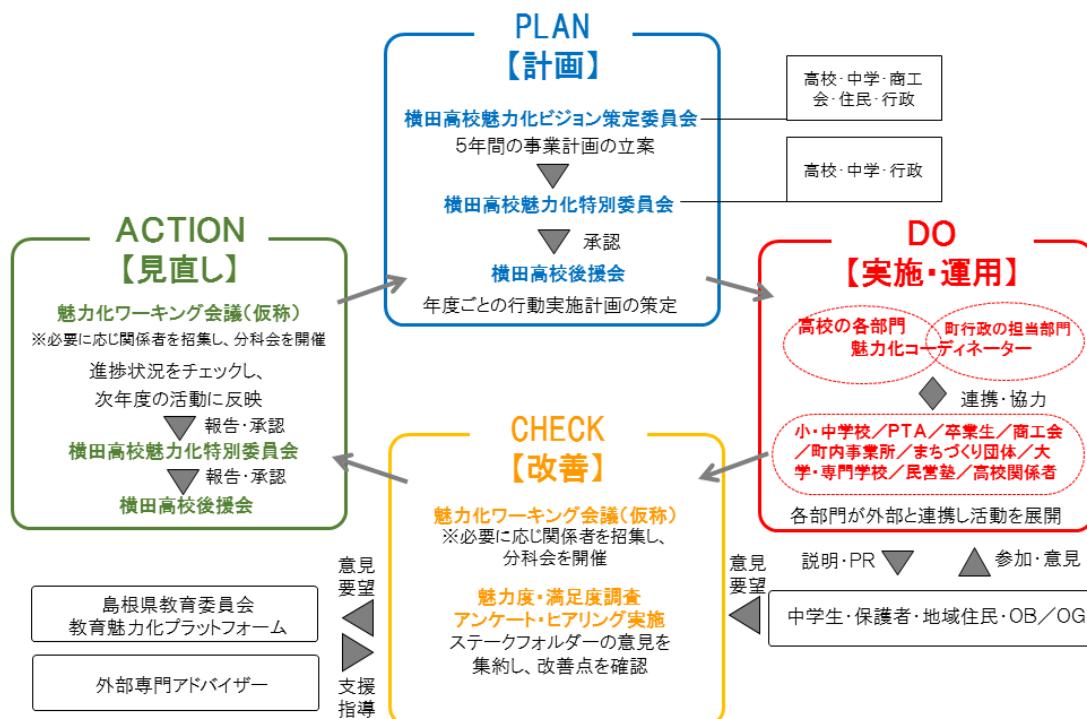
横田高校魅力化ビジョン策定に関し、基本方針を定め、戦略的な施策等の検討・立案を行う実行組織として、平成28年6月より「横田高校魅力化とビジョン策定委員会」を立ち上げ、協議を重ねてきました。

また、町内外の生徒、保護者、中学校、企業などの関係者・関係機関にアンケート調査、ヒアリング調査を実施し、しっかりとした現状分析のもと、有効な施策を立案してきました。そして、その施策をビジョンにまとめ、横田高校魅力化特別委員会により最終案が審議、承認されました。

平成29年度よりスタートする「未来を切り拓く「四方よし」のひとつづくり」を基本理念とする横田高校魅力化ビジョンは、各部門が外部と連携し、活動を展開してまいります。その中で、定期的に横田高校魅力化ワーキング会議（仮称）を開催し、事業の進捗管理と事業改善を行います。

また、その改善の指標として、横田高校魅力化の魅力度・満足度を図る魅力化アンケートやヒアリングを、高校生、中学生、保護者、地域住民などのステークホルダーに実施し、効果的な施策となるよう常に改善をしていきます。

その改善にあたり、島根県教育委員会や教育魅力化プラットフォームからの支援、指導を仰ぐとともに、俯瞰した立場から外部専門アドバイザーからの助言を得て、さらに効果的なビジョンへと毎年見直しを図ります。



## 参考資料

### 横田高校魅力化ビジョン策定の経緯

#### ①横田高校魅力化特別委員会

特別委員会は、ビジョンの原案を審議し、承認し、町長へ提案する機関とする。

回数・日時	検討事項
第1回・3月17日 初回	奥出雲町・横田高校新ビジョン策定方針の決定【審議】
第2回・6月29日 中間報告・審議	第1回ビジョン策定委員会内容・ヒアリング環境分析による成果と課題【報告】 ビジョン実施に向けた施策体系提示【審議】
第3回・10月13日 中間報告・審議	第3回までのビジョン策定委員会内容の報告 横田高校魅力化ビジョン(素案)の提示【審議】
第4回・11月21日 中間報告・審議	横田高校魅力化ビジョン(中間案)【審議】
第5回・2月16日 最終審議	横田高校魅力化ビジョン(最終案)【審議】
第6回・3月9日 最終報告	横田高校魅力化ビジョン【報告・承認】

#### ②横田高校魅力化ビジョン策定委員会

ビジョン策定に関し、基本戦略、戦略別的基本目標・施策等の検討・立案を担う実行組織。また、町内外の生徒・保護者、中学校、企業などの関係者・関係機関にヒアリング調査を実施し、しっかりと現状分析のもと、有効な施策アイデアを立案する。

内容	検討事項
第1回・6月19日	今までの取り組みと現状の共有・本会の目的と今後のスケジュール共有 目標すべき姿と成果指標の協議・共有 課題の共有とその検証方法の検討
検証・調査・7月～8月	第1回目で出た仮説課題を検証するヒアリング・アンケートなどを実施
第2回・8月8日	ヒアリング内容の取りまとめ報告・共有 現状分析を踏まえ、課題と原因の再検討
第3回・9月12日	課題と原因を踏まえ、成果の出る施策を検討・提案
第4回・11月14日	横田高校魅力化ビジョン(素案)の立案
第5回1月31日	横田高校魅力化ビジョン(最終案)の検討・修正
(特) 3月9日	横田高校魅力化ビジョン実施に向けた研修会 開催

#### ③地域住民・関係機関

内容	検討事項
2月24日～3月3日	横田高校魅力化ビジョン(最終案)について高校・町HPにてパブリックコメントの募集や関係機関との意見交換を実施。
3月末以降(随時)	横田高校魅力化ビジョン【全文】について高校・町HPにて周知するとともに、横田高校魅力化ビジョン【概要版】を作成し、町内外へ配布。

■横田高校魅力化特別委員会名簿 (敬称略、順不同)

役職	氏名	役職
委員長	松浦 士登	奥出雲町副町長
副委員長	松浦 昇	稲陵会会长
副委員長	石原 正照	横田高校 P T A 会長
理事	安部 隆	奥出雲町教育長
理事	川本 健二	奥出雲町総務課長
理事	勝部 克己	横田中学校 校長
理事	白石 瞳	仁多中学校 校長
理事	藤本 数章	横田高校 校長
事務局	杠 康彦	奥出雲町地域振興課長
事務局	三成 由美	奥出雲町地域振興課 企画員
事務局	高島 暢	横田高校 事務局長
事務局	石原 学	横田高校 教頭
事務局	本宮 理恵	横田高校魅力化コーディネーター
事務局	長谷川 由樹	横田高校魅力化コーディネーター

■横田高校魅力化ビジョン策定委員会名簿 (敬称略、順不同)

	氏名	役職
教育委員会	高橋 伊尚	奥出雲町教育委員会 社会教育主事
	眞田 由美子	奥出雲町教育委員会 教育総務課
町長部局	三成 由美	奥出雲町役場 地域振興課
	長谷川 史郎	奥出雲町役場 総務課
横田高校	石原 学	横田高校 教頭
	伊藤 直登	横田高校 教諭
	吉岡 淳	横田高校 教諭
	本宮 理恵	高校魅力化コーディネーター
	長谷川 由樹	高校魅力化コーディネーター
中学校	山崎 茂雄	仁多中学校 教諭
	園山 貴之	仁多中学校 教諭
	松田 信子	横田中学校 教諭
	糸原 保弘	横田中学校 教諭
関係団体・関係者	元山 貴光	奥出雲町体育協会(ホッケー協会)
	塔村 俊介	奥出雲塾 塾長
	岩沢 彩子	紫雲寮 舎監
	山田 千夏	島根県立大学4回生(横田高校OB)
	糸賀 夏樹	奥出雲町定住コーディネーター
	森山 志津恵	奥出雲町商工会
	石原 誠太郎	奥出雲町商工会 青年部 部長
外部アドバイザー	岩本 悠	島根県教育委員会 教育魅力化特命官
	山元 圭太	株式会社パブリコ 代表取締役

## ■ 問い合わせ・連絡先

島根県立横田高等学校

〒699-1821 島根県仁多郡奥出雲町稻原2178-1 TEL0854-52-1511 <http://www.yokota.ed.jp/>  フェイスブックで  情報発信中!!

奥出雲町役場

〒699-1592 島根県仁多郡奥出雲町三成358-1 TEL0854-54-1221(代表) <http://www.town.okuizumo.shimane.jp/>

発行:島根県立横田高等学校・奥出雲町・島根県立横田高等学校後援会

平成29年3月

本ビジョンの策定にあたり、高校、中学校、商工会、住民、行政で組織する「横田高校魅力化特別委員会」、「横田高校魅力化ビジョン策定委員会」を立ち上げ、計11回にわたり、検討・立案をするとともに、生徒、保護者へのアンケート・ヒアリング調査を行い、現状分析に基づく、有効な施策をまとめました。